

**「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」第3回会合における
辻外務大臣政務官の挨拶**

(平成30年11月14日、於：長崎県美術館)

(仮訳)

外務大臣政務官の辻清人です。本日、核軍縮に関する幅広い知見をお持ちの委員の皆様とお会いできることを、大変光栄に、また喜ばしく思います。先程、皆様と一緒に被爆の実相プログラムに参加させていただき、私自身も、核兵器のない世界に向けて、力を尽くしていく決意を新たにしましたところです。

昨年11月に広島で産声を上げた「賢人会議」が、今回もう一つの被爆地であるここ長崎で開催されることは、大変意義深いものと考えております。委員の皆様による精力的な議論を通じて本年3月にまとめられた提言については、4月のNPT運用検討会議第2回準備委員会において、河野外務大臣から、国際社会にとって参考となる有益な提言であるとして紹介しました。河野大臣は、同委員会のサイドイベントにおいても、提言の目指す橋渡しの意義について強調し、同提言は国際社会からも高い評価を得ております。また、本年、我が国が国連総会第一委員会に提出した核兵器廃絶決議案にも、「賢人会議」の提言の要素を盛り込みました。同決議は160か国の支持を得て採択されました。提言の作成に際しての委員の皆様の御尽力に、改めて心からの敬意と感謝を表します。

現在、国際社会においては、安全保障環境が厳しい状況が続いており、また、核軍縮の進め方をめぐる国家間の立場の違いが見られます。こうした厳しい現実を踏まえ、我々は、現実的かつ具体的な核軍縮措置を積み重ねていかなければなりません。日本政府としても、核兵器のない世界に向けて、そうした措置を促進する双方向の議論を促し、立場の異なる国々の橋渡しに努めながら、国際社会が一致して取り組むことができる共通の基盤の形成に粘り強く貢献してまいりたいと考えています。

今次会合では、4月の「賢人会議」の提言にもあるように、中長期的な視点から軍縮と安全保障の関係に関する困難な問題等について議論が行われると承知しております。具体的には、核兵器を正当化又は非正当化する種々の議論について検討し、核兵器の削減に向けた取組を進める上で直面する課題や解決策について、忌憚のない議論が行われることを期待しています。日本政府としては、「賢人会議」での議論の成果が、2020年に運用検討会議を控えるNPTプロセスの進展にも寄与するものと考えます。

今次会合を通じて、国家間の立場の違いを橋渡ししていく上で道標となるような有意義なアイデアや提案が得られることを大いに期待しております。ありがとうございました。